

作業学習（グループ作業）指導案（略案）

平成 25 年 2 月 1 日（金） 2 校時
 高等部 A グループ 男子 6 人
 場所 高等部 2 年 教室
 指導者 東屋敷 卓(CT) 小久保 博幸(ST1) 鶴田 智美(ST2)

1 単元 「リサイクルメモ帳を作ろう」

2 本時の実際 (41/52)

(1) 全体目標

ア 道具の安全な使い方や手順に気を付けながら、時間いっぱい作業に取り組むことができる。
 イ 作業日誌を基に、自分の担当する作業や目標を確認したり、その日の作業を振り返ったりすることができる。

(2) 個人目標

生徒	個別の指導計画の目標	個人目標
A (1年, 男)	道具類の操作に慣れ、時間いっぱい集中して作業することができる。	ア 紙の裏表に気を付けながら、補助具を用いて時間いっぱいエコロジースタンプ押しをすることができる。 イ 前回の作業日誌を活用して、教師と一緒に今日の目標をキーワードで確認することができる。
B (1年, 男)	自分の役割を理解し、集中して作業に取り組むことができる。	ア クリップやステイプラーの芯、挿入する枚数に気を付けながら、用意された紙を全てシュレッダーに掛けることができる。 イ 作業日誌を基に、自分の担当する工程や妥当な自己評価を選択肢の中から選ぶことができる。
C (1年, 男)	必要な道具や手順を理解して、決められた時間いっぱい作業に取り組むことができる。	ア 教師の言葉掛けを受けながら、補助具を用いて時間いっぱいエコロジースタンプを押すことができる。 イ 前回の作業日誌を基に、自分の担当する工程を選択したり自己評価をしたりすることができる。
D (2年, 男)	自分の役割を理解し、集中して作業に取り組むことができる。	ア 紙をそろえたり紙の枚数（5枚）を数えたりしながら、穴開けパンチのガイドに沿って紙を置くことができる。 イ 教師と一緒に作業日誌を見たり自分の担当工程を確認したりして目標を設定したり振り返ったりすることができる。
E (2年, 男)	自分で正しく判断し、集中して作業に取り組むことができる。	ア 紙の表裏やステイプラーの有無などについて、自分で判断しながら時間いっぱい紙を分別することができる。 イ 教師との対話を通して、個人目標を設定したり、作業を振り返ったりすることができる。
F (3年, 男)	良品を意識して、丁寧に作業することができる。	ア 紙をそろえたり紙の枚数（5枚）を数えたりしながら、裁断機のガイドに気を付けて紙を切ることができる。 イ 教師と一緒に良品や不良品を確認して、目標を設定したり自分で振り返ったりすることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要

本時では、工程を細分化することで、それぞれの作業能力に応じた役割や材料の受け渡しなど、作業を行う上で必要なコミュニケーションの機会を設定する。また、前時までと同じ作業分担を設定し、前回の反省を生かしながら自分の担当する作業分担に責任をもって取り組むことができるようにする。

教材・教具とのかかわりについて

紙を裁断する工程では、スライド式裁断機にガイドを付けておくことで、一人で正確に裁断できるようにするなど、それぞれの工程に応じた教材・教具を工夫する。

友達・教師とのかかわりについて

工程カードや顔写真を黒板に掲示しておくことで、材料の受け渡しをする相手のことを必要に応じて確認することができるようにする。

自分とのかかわりについて

作業日誌には、項目として作業内容の確認欄、自己評価欄、他者評価（教師）欄を設ける。教師と一緒に振り返ることで、自分のできたことや課題に気付くことができるようにする。

授業環境の工夫

座席の配置は、全員が黒板に掲示した製品ができるまでの流れや見本の製品などを見て確認したり、材料を受け渡す際に生徒同士が関わったりすることができるような場の設定を行う。

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (5分)	<p>※ 自分たちの使う道具の準備をする。</p> <p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 本時の学習を確認する。 (1) 納品時のVTRを視聴する。 (2) 担当工程を確認する。 (3) 個人目標の確認をする。 (4) めあての確認をする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「気を付けること」を考えながら時間いっぱい取り組もう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具棚の写真掲示を見て、使用する道具を自分たちで準備できるようにする。 ・ CTがモデルを示し、大きな声で挨拶や返事ができるようにする。 ・ 納品時のVTRを提示し、生徒の作業意欲を高めることができるようにする。 ・ 顔写真を用いて、担当する工程や教師を確認することができるようにする。 ・ 作業日誌を基に個人目標を設定するとともに、全体のめあても確認することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成品 ・ 納品時のVTR ・ テレビ ・ 工程カード ・ 納品時の写真 ・ 顔写真（生徒、職員）
展開 (40分)	<p>3 製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選別, 分別 E (ST1) 紙の表裏をチェックし、再利用の可否を判断する。 ・ シュレッダー B (ST1) 再利用が不可な紙をシュレッダーにかけたり、溜まった紙を捨てに行ったりする。 ・ 裁断 F (ST2) スライド式裁断機を使って、A4紙をA6サイズに裁断する。 ・ 穴あけ D (ST2) 穴あけパンチを使って、A6紙に穴を開ける。 ・ スタンプ押し A, C (CT) 印字面中央部にエコロジースタンプを押す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流れ作業ができるように、場の構成を工夫する。 ・ EがST1に選別の可否を尋ねてきた時には、Eの考えを聞いてから答えるようにする。 ・ Bのシュレッダー、Fの裁断機、Dの穴あけパンチの操作は、必ず教師と一緒にいたり、安全に配慮できるような言葉掛けを行ったりする。 ・ Fには支援カードを用意し、必要に応じて指し示すことで、紙の枚数を数えたり、そろえたりすることができるようにする。 ・ Dが穴を開ける時は、ガイドを付けた穴あけパンチを使用することで、一定の場所に穴を開けることができるようにする。 ・ A, Cがスタンプ押す時は、スタンプを押すための補助具を使用し、紙を汚さずに、一定の場所にスタンプを押すことができるようにする。 ・ 承認の合図を目や身体表現で伝え、なるべく一人で取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援カード ・ 作業日誌 ・ 再利用紙 ・ かご各種 ・ シュレッダー ・ 裁断機 ・ 穴あけ機 ・ スタンプ ・ スタンプ補助具 ・ 紙置き具
終末 (5分)	<p>4 本時の振り返りをする。 (1) 自己評価をする。 (2) 発表する。</p> <p>5 終わりの挨拶をする。</p> <p>※ 自分たちの使う道具の片付け、清掃をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した製品を提示したり、自己評価したりして、作業を振り返ることができるようにする。 ・ 評価を発表する場を設定し、取組の姿勢や個人目標の達成度について発表することができるようにする。 ・ 次時の作業内容を確認し、反省点を次時に生かすことができるようにする。 ・ 道具棚の写真掲示を見て、使用した道具を自分で片付けることができるようにする。 ・ 協力して掃除をすることができるように言葉掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業日誌

(5) 評価

- ア 道具の安全な使い方や手順に気を付けながら、時間いっぱい作業に取り組むことができたか。
- イ 作業日誌を基に、自分の担当する作業や目標を確認したり、その日の作業を振り返ったりすることができたか。